

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○三重県の視覚障がい教育の中核的役割を果たすとともに、児童・生徒一人ひとりが尊重され、夢や目標に向けチャレンジできる学校
(2)	育みたい児童・生徒像	○夢や目標（スポーツや文化的な活動、日常の課題、国家試験合格や優れた施術者になること等）を自ら定め、挑戦する児童・生徒。 ○自他の命を大切にする、人権感覚にあふれた児童・生徒。 ○仲間とともに積極的に活動し、互いを尊重し理解し合う関係を築いている児童・生徒。
	ありたい教職員像	○視覚障がい教育に関する専門性の維持・向上に積極的に取り組み、関係機関と連携をはかりながら視覚障がい児・者の学習支援やセンター的機能の充実をはかろうとする教職員。 ○特別支援学校に勤務する者として、幼児・児童・生徒個々の障がいに基づいた誠実な支援を行い、幼児・児童・生徒及び保護者からの信頼に応えられる人権を重んじた真摯な態度で教育を行う教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;児童・生徒&gt; 将来の自立と社会参画に向けて、学齢児においては「生き抜いていく力」につながる知識やスキルの習得を、成人生徒においては国家試験に合格し、希望進路が実現することを望んでいる。</p> <p>&lt;保護者&gt; 学力や基礎生活力の向上に向けて専門的な視覚障がい教育が受けられることや、将来を見通した情報提供並びに個々に応じた進路指導が期待されている。また、視覚障がいの特性をふまえた危機管理体制の充実が望まれている。</p> <p>&lt;地域&gt; 視覚障がいのある乳幼児の保護者への支援や他校に在籍する視覚障がい児童・生徒への学習支援、中途視覚障がい者への生活支援の充実が望まれている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> 点字等の専門的な指導を充実するとともに、教育内容や進路に関する担任等との相談の機会を増やしてほしい。	<家庭> 本校の教育方針に対して理解と協力を進め、共通した方向性で家庭教育を行ってほしい。
	<地域社会> 盲学校の教育内容や視覚障がいの理解につながるような情報を発信してほしい。	<地域社会> 本校の取り組みを理解し、各種行事に参加したり、啓発活動を行う機会を提供したりしてほしい。
	<学校・幼稚園・保育園等> 視覚障がい児童・生徒に対する指導について、専門的な見地から助言してほしい。	<学校・幼稚園・保育園> 早期からの適切な支援を行うべく、早めに対応できる体制を整えてほしい。

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「改善課題」について委員と認識を共にしたが、専門性向上については概ね達成されている。</li> <li>・在校生数により学級数が増減し、それに伴って職員数も変動するので、専門性の継承が課題と考えられる。聴覚障がいの子の支援のシステムと同等のライフステージをつなぐトータル窓口が必要といえる。</li> <li>・校内の情報共有については、具体的な意見を掘り下げて把握し、具体的に改善策を考えていくべきである。</li> </ul>
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒数が少ないことから、社会性向上につながる集団での教育活動には弱みがあるが、個々の児童・生徒の状態に応じた細やかな学習計画（理療科においては、課外授業も含む）を設定して取り組めることが強みである。</li> <li>・理療科では、資格のない生徒の就職が困難な状況にあることから、国家試験に合格するための専門教育と指導力の向上を進めるとともに、就職先の確保に向けて、一層の啓発活動と進路開拓を行う必要がある。</li> <li>・学校内における高い専門性を持った指導を担保しつつ、センター的機能として他の学校等への支援に経験豊富な教諭を派遣していることから、全ての教員に対して、知識や専門性向上のための研修体制を一層充実させ、視覚障がい領域の免許取得を推進することが急務である。</li> <li>・地域や保護者からの要望を受け、幼児等に対する支援体制を構築し幼稚部設置に向けた取組を推進していく必要がある。</li> </ul>
	<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広く県民に対して、視覚障がい児・者の子育て、教育、生活等での相談先として知られてきている反面、全県一区の学校であるため支援が広域におよび、近隣地域等との連携が深まりにくい状況がある。</li> <li>・視覚障がい者の特性に配慮した巨大地震や津波などに対する防災・減災の取り組みを一層進めていく必要がある。</li> <li>・本校の支援活動や支援教育の取組等を積極的に外部に発信し、視覚障がい教育について啓発していく必要がある。</li> <li>・時間外労働が一部の教員に偏っていることから、業務分担の平準化を図るとともに、全体的な総勤務時間の縮減を図る必要がある。</li> <li>・人権教育を充実させるために、教職員の人権感覚を涵養する取組を行う。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の健康管理意識、体力の向上、基礎学力の向上にとりくみ、仲間とともに、自ら進んで課題に挑戦する態度を養う。理療科においては、国家試験の合格と優れた人材の育成をめざすとともに、中途視覚障がい者の自立と学び直しのための教育課程について具体的な検討を進めていく。</li> <li>・将来の社会参画と自立に向けて、幼・小・中・高・専と継続したグランドデザインを構築しキャリア教育の実践を積み重ねる。</li> <li>・教職員の視覚障がい教育に対する専門性の維持、向上をはかるため、3年間で一定の視覚障がい教育の専門性を身につけられるような研修体制づくりをめざす。</li> <li>・早期教育・幼児教育を充実させるための幼稚部を設置する。</li> </ul>
-------------	---

- ・ 県内全域に対するセンター的機能の充実をはかるとともに、学校所在地域との連携を強めていく。
- ・ 児童生徒の生命の安全を第一に考え、より幅広い視点から危機管理体制の見直しを図る。
- ・ 県内のすべての視覚障がい児・者が、本校の存在や教育内容について知ることのできる状態を目指して、教育や福祉等の行政及び医療機関、社会に向けた啓発を一層強化していく。

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

※：定期的に進捗を管理する取組

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします

◎：最重点取組

項目	取り組み内容・指標	結果	備考
学 習 ・ 生 活 指 導 の 充 実	<p>(1) キャリア学習プログラムに則った個別の指導計画に基づき、児童生徒の分かりやすい授業に取り組み、一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上を図る。(小・中学部)</p> <p>【活動指標】児童生徒の情報交換会を持ち必要な情報交換が得られたか。</p> <p>【成果指標】児童生徒のキャリア教育学習プログラムの項目1つ以上達成及び、個別の指導計画の年間目標1項目以上達成する。</p>	<p>【活動・成果】</p> <p>順調に活動が行われたため、目標とした「児童生徒のキャリア教育学習プログラムの項目1つ以上、個別の指導計画の年間目標1項目以上」の指標をクリアできた。(達成)</p>	◎
	<p>(2) 人権教育を重視した交流学習や授業実践に取り組み、仲間とのつながりを意識させることで相手を思いやる気持ちを育むとともに、社会の一員として自立するためのソーシャルスキルの向上を目指す。(小・中学部)</p> <p>【活動指標】仲間と協力して取組んだり、日常生活経験を豊かにしたりするための活動を提案し、学部単位の校外学習を2回以上実施及び小・中学部合同の校外学習を2回以上実施する。</p> <p>【成果指標】児童生徒のキャリア教育学習プログラムの項目1つ以上達成する。</p>	<p>【活動・成果】</p> <p>コロナ禍を避けて、小・中学部合同の校外学習を2回、小・中それぞれの校外学習を2回ずつ実施した。(達成)</p> <p>その他、小学部では他校児童と『スポーツ交流会』を2回実施、他県の盲学校・視覚支援学校とオンラインで2回の交流を実施した。校外学習や交流学習でキャリア教育学習プログラムの項目1つ以上達成できた。(達成)</p>	
	<p>(3) 生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画に基づいて、基礎・基本および人権教育を重視した授業実践に取り組み、個々に応じたきめ細やかな支援のもと自主的に学習できる生徒の育成を図る。(普通科)</p> <p>【活動指標】学部会で月1回生徒の情報交換を行う。年間11回実施。</p> <p>【成果指標】各生徒の個別の指導計画年間目標1項目以上達成。</p>	<p>【活動・成果】</p> <p>学部会で生徒の情報交換を年間15回実施し、個別の指導計画年間目標1項目以上を達成できた。(達成)</p>	

<p>(4) 自立活動の時間を中心として人を思いやる気持ちを育むとともに、思考力・判断力・コミュニケーション力・情報活用能力等の習得のための支援を行う。(普通科)</p> <p>【活動指標】年度初めと各学期末の年5回 自立活動検討会を実施。</p> <p>【成果指標】全生徒が将来の進路や日常生活の目標を明確にできる。</p>	<p>【活動・成果】</p> <p>各学期の始めと終わりの年5回、自立活動の内容や学期の様子などを報告し合い、それぞれの目標を持って取り組むことができた。生徒一人ひとりが、将来の進路や日常生活の目標に向かって進むことができています。(達成)</p>	◎
<p>(5) 就労を見据え、生徒の実態・適性を的確に把握し、個々が、適切な進路を見つけられるよう指導・支援すると同時に、人権を尊重する理療・保健理療施術者の育成を図る。(理療科)</p> <p>【活動指標】</p> <p>①長期休業中のオンラインを含めた課外授業の実施、実力テストを年1回・模擬試験を年3回実施する。</p> <p>②長期休業中に各学年に応じた校外実習・見学・情報提供を実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験合格を見込める学力の育成(直前の模擬試験で、国家試験合格を見込める得点取得を達成)</li> <li>・理療・保健理療資格を生かした進路保障(具体的な進路先候補を1件以上提示)。</li> </ul>	<p>【活動・成果】</p> <p>生徒個々の実態に合わせて課外授業を行い、年5回のテストを実施した。模擬試験では、国家試験合格を見込める得点を取らせることが出来た。</p> <p>また、終了学年の生徒に対して、就労のための実習・見学を実施した。他の学年の生徒には、実態に応じて、見学・進路指導に関する懇談や情報提供活動を実施し、希望者に具体的な進路先候補を1件提示することが出来た。(達成)</p>	◎
<p>(6) 舎生の実態を的確に把握し、一人ひとりに応じた支援・指導の充実を図る。(寄宿舎)</p> <p>【活動指標】</p> <p>①保護者、学級担任、舎務係と連携を密にする。</p> <p>②職員間及び宿直舎監との毎日の引き継ぎを確実にやり、情報共有を図る。</p> <p>③職員間の指導の統一を図り、全職員で支援・指導に取り組む。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①保護者、学級担任と学期毎に懇談を実施し情報共有する。</p> <p>②宿直舎監との情報共有の時間を1日3回とる。</p> <p>③個別の指導計画における個々の目標を1つ以上達成する。</p>	<p>【活動・成果】</p> <p>保護者、学級担任との懇談を実施し、個別の指導計画を作成した。日常的に学級担任や舎務係と連携し情報共有に努めた。舎職員会等で、舎生の様子について話し合い、指導の統一を図ることができた。</p> <p>職員間及び宿直舎監との引き継ぎは1日3回が定着した。連絡の漏れがないように大事な内容は繰り返し確認し、不在の職員には、記録を見るようにして漏れがないように努めた。個別の指導計画の設定項目はクリアできた。(達成)</p>	

<p>(7) 舎生が仲間とともに積極的に活動し、お互いを大切にする力を育む。挨拶やルール・マナーを守り、よりよい生活を築く力を育む。(寄宿舎)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>① 舎生主体の舎生会活動に取り組む。 ② 月初めに生活目標を伝え、意識づける。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>① 毎回行事等の反省・感想を聞き、楽しかったという割合 80%以上。 ② 月末に感想・反省を聞く。達成度 80 パーセント以上。</p>	<p><b>【活動・成果】</b></p> <p>密集、密接、密閉の3密を避けるように舎生活に配慮し、舎生会活動や行事等を100%実施した。(達成)</p> <p>各行事の前に舎生会役員会を開き、舎生主体で舎生会行事に取り組めるように進めた。(達成)</p>
<p>(8) 個別の指導計画の作成と効果的な活用を進める。(教務部)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>① 作成と活用について、指導的立場を担う。 ② 目標や指導内容について、関係者が情報共有を行い、指導の改善に努める。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>各学部教務担当者および道德教育担当者が学期に1回実施状況を把握し、年度末フィードバックを行う。</p>	<p><b>【活動・成果】</b></p> <p>担当者が各学期の始めと終わりに指導計画の作成状況を確認し、未記入の部分については記入するよう助言した。</p> <p>キャリア教育学習プログラムと連動させて個別の指導計画の目標が設定され、それに基づいて各授業が進められていることを確認した。(達成)</p>
<p>(9) 児童生徒に読書および図書館利用をすすめ、豊かな人間性を培い、自学能力を育成する。(情報メディア)</p> <p><b>【活動指標】</b> 図書館を効率よく運営し、児童生徒が読書しやすい環境、自学自習しやすい環境を整備する。</p> <p><b>【成果指標】</b> 児童生徒の貸出利用者率80%目標。</p>	<p><b>【活動・成果】</b></p> <p>児童生徒の貸し出し利用率 100%。(達成)</p>
<p>(10) 幼稚部の正式な設置を視野に入れた早期支援・早期教育の充実と、学齢期の児童生徒に対する教育相談の充実をはかる。(支援部)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>① 早期支援・早期教育 「ひだまり教室」年間 89 回、「親子のつどい」年間9回、「でアイふれアイ相談会」年間7回の実施。 ② 教育相談 個々のニーズを把握し、それに応じた必要な回数の実施。</p> <p><b>【成果指標】</b> ①②ともに、年度末にアンケートを行い、「よかった」の項目について、保護者の満足度「80%以上」。②については、在籍校の満足度「80%以上」。</p>	<p><b>【活動・成果】</b></p> <p>① 年間開催回数(見込み)は85回(9月は休校のため実施できず)。「親子のつどい」は年間8回(見込み)開催。ひだまり教室在籍幼児以外の乳幼児の参加もあった。「でアイふれアイ相談日」は1回開催。また、個人や幼稚園、子ども相談センター等広く教育相談の依頼があった。満足度85%(達成)</p> <p>② 通級的な指導では、4月から児童2名に月1回ずつ、12月から新たに児童1名に月1回、もう1名の児童に週1回支援している。満足度100%。(達成)</p>

	<p>(11)健康診断・身体測定を通して、自分の体を知り、日常生活において基本的な生活習慣を身に付け、健康的な食生活を送り、健康の維持、体力の向上を図ることのできる児童生徒の育成を目指す。(生活保健部)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>①児童生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高めるため、各種健康診断を実施。</p> <p>②自分の体と健康に関する知識を持ち、健康的な生活を養うため、身体測定を月1回実施。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>①全ての検診において受診100%</p> <p>②月1回の身体測定参加100%</p>	<p><b>【活動・成果】</b></p> <p>聴力検査、視力検査、結核検診(胸部X線)、耳鼻科検診、心電図検査、眼科検診、内科検診、歯科検診の受診、全て100%。(達成)</p>	
安全・安心な学校生活	<p>(1)安全・安心な寄宿舎生活を目指す。(寄宿舎)</p> <p><b>【活動指標】</b>様々な状況(昼間・夜間)を想定した避難訓練を行う。</p> <p><b>【成果指標】</b>学期に1回の訓練を実施。</p>	<p><b>【活動・成果】</b></p> <p>避難訓練は「地震発生後に火災」の想定を追加し5回実施した。また、職員の不審者対応の訓練を行った。(達成)</p>	
	<p>(2)人権教育を重んじた実践をサポートする。(教務部)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>いじめ防止や命を大切にす視点を含めた道徳教育の全体計画の実施状況や、各教科の指導内容を定期的に把握し、改善に努める。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>①学部会等で作成と活用について助言を行う。</p> <p>②当該児童生徒の担任団や担当者が指導目標・内容を定期的に確認し評価する。(各学期2回)</p>	<p><b>【活動・成果】</b></p> <p>総合的な探究の時間等を使って、人権教育等を計画的に進めた。特に自立活動については、学期ごとに2回ずつ、担任団が指導目標・内容・成果などを確認し合った。(達成)</p>	※
	<p>(3)自他の命を大切に、いじめを許さない学校づくりを推進する。(全、生活保健部)</p> <p><b>【活動指標】</b>保護者との懇談を年4回、いじめアンケートとそのフィードバックを児童および保護者へ年3回実施。</p> <p><b>【成果指標】</b>いじめ事象の発生時は迅速に適切な対応をとり、解消および再発防止に努める。いじめ0。</p>	<p><b>【活動・成果】</b></p> <p>保護者との懇談を3回(休業期間があったため-1)、いじめアンケートを3回実施し、そのフィードバックを実施した。</p> <p>いじめ事象は0(ゼロ)。(達成)</p>	

	<p>(4)式典や PTA 活動などの行事で、感染拡大を防止する取り組みを実施し、安全・安心な学校生活ができるようにする。(総務部)</p> <p><b>【活動指標】</b>        全校行事での体育館の収容人数を70人以下にする。        行事の後に、消毒等を徹底して行う。</p> <p><b>【成果指標】</b>        体育館への収容人数70人以下、その他の教室等での実施も、人数を制限するなど、3密対策をする。</p>	<p><b>【活動・成果】</b>        4回の大きな行事で、体育館への収容人数70名以下で運用することができた。こまめに換気や消毒を徹底するなど、感染拡大の防止対策をすることができた。(達成)</p>	
	<p>(5)学校給食における事故等防止への校内体制の強化。(生活保健部)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーや疾病に起因する食事制限への除去や代替等の対応、および異物混入を未然に防ぐために複数での対策を行う。</li> <li>・非常事態時の対応マニュアルの共有。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険異物混入無し100%。</li> </ul>	<p><b>【活動・成果】</b>        調理員、担任や管理職とも食物アレルギー等の情報共有を行い対応した。異物混入を防ぐため、作業前から行程を複数でチェックするなど取り組んだ。また、非常事態時のマニュアルを学期始めの3回確認した。        危険異物混入は無し。(達成)</p>	
	<p>(6)自らの命を守るため、防災・減災に対する意識を高く持ち、視覚障がい者の特性を考慮した安全行動がとれるように避難訓練等を通して、危機管理体制の充実を目指す。(生活保健部)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①年2回避難訓練を実施。(通常避難訓練・抜き打ち避難訓練)</li> <li>②年3回防災給食や個人備蓄食品試食等の実施。</li> </ol> <p><b>【成果指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①避難訓練チェックシートの提出率100%</li> <li>②実施率100%。</li> </ol>	<p><b>【活動・成果】</b>        消防署と連絡を密にし、生活保健部会をはじめ運営委員会および職員会議でも十分に協議し、実施した。        年2回の避難訓練を実施、年3回の非常食等の実施を行い、避難訓練チェックシート提出100%(達成)</p>	
<p>の障 理が 解い</p>	<p>(1)視覚障がい関連図書を積極的に収集する。(情報メディア部)</p> <p><b>【活動指標】</b>視覚障害教育を担う機関として、視覚障がい関連図書の収集に努める。</p> <p><b>【成果指標】</b>年間で30冊、視覚障がい関連図書を収集する。</p>	<p><b>【活動・成果】</b>        年間で40冊、視覚障がい関連図書を収集した。(達成)</p>	

	<p>(2)視覚障がい児・者理解に向けた啓発・支援活動の推進(支援部)</p> <p>【活動指標】県内全市町の福祉行政機関及び関係諸機関への訪問を行い、視覚障がい理解のための啓発活動を推進するとともに、職域・職場開拓につなげる。また、卒業生の支援については、時期をもうけず、必要時迅速な対応を行う。</p> <p>【成果指標】県内29市町の関係機関を春と秋の年2回ずつ訪問するとともに5市町以上で盲学校啓発活動を行う。また、卒業生支援については、該当卒業生や進路先へのアンケートを行い、対応についての満足度「80%以上」を目標にする。</p>	<p>【活動・成果】</p> <p>県内29市町の福祉関係機関を春と秋の年2回訪問し、連携・啓発活動を行うことができた。秋の訪問時には、乳幼児担当が約半数の市町を担当し、早期支援・早期教育の啓発を充実させることができた。加えて今年度は、県教委の特支課を通じて教育関係機関(幼・小・中等)へ啓発パンフレットを配付することができた。その結果、子ども相談センターや子ども家庭課等からの相談の依頼が増えた。市町の担当者より、「満足」の返答をいただいた。(達成)</p>	
	<p>(3)盲学校の日常の教育活動の様子を校外に知らせ、障がいの理解に努める。(管)</p> <p>【活動指標】日常の様子をホームページなどで知らせる、行事などがあるときにマスコミに告知を出す。</p> <p>【成果指標】ホームページの更新を月1回程度行い、可能な場合には、コメントなども追加する。行事などのマスコミへの告知を複数回行う。</p>	<p>【活動・成果】</p> <p>ホームページ(三重盲ブログ)は、119回の更新(8月から1月)を行った。行事等のマスコミへの告知は、2回(信GO、点字ブロックポスター)。体育祭は縮小し保護者参加なし。文化祭は在校生と職員、保護者1人のみ参加で行い外部告知は行わなかった。(更新、告知とも達成)</p>	

(2)学校運営

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします

※：定期的に進捗を管理する取組

◎：最重点取組

<p>職場環境の向上</p>	<p>(1)総勤務時間を縮減する。(管)</p> <p>【活動指標】</p> <p>①時間外労働時間を正確に入力するよう啓発する。</p> <p>②学校閉校日を夏季休業中に4日設定する以外に年休等の取得を呼びかける。</p> <p>③月1回のノー会議ディ、定時退校日を設定する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>①一人あたりの月平均時間外労働:15時間以下。</p> <p>②1ヶ月の時間外労働時間45時間超え延べ人数0。</p> <p>③1年間の時間外労働総時間360時間超え人数0。</p> <p>④年休取得1人7日以上、夏季休暇完全取得100%。</p> <p>⑤設定した日の定時に退校できた職員の割合90%以上</p>	<p>【活動・成果】(1月末現在)</p> <p>①:15時間超えが5人。</p> <p>②:45時間超えが延べ8人。</p> <p>③:360時間超え0人。</p> <p>④:年休取得は、全平均で7.7日、夏季休暇100%で共に達成。</p> <p>⑤:定時退校の割合は、4月:87%、5月:90%、6月:92%、7月:93%、8月:100%、9月:100%、10月:91%、11月:90%、12月:98%、1月:91%で、2月:91%。</p> <p>(4月以外は達成しているが、4月は難しかった)</p>	
	<p>(2)会議資料の事前提出の促進をはかるなど各会議の効率化を目指す。また職員や校務部間の報告、連絡、記録を積極的にして情報共有を促進</p>	<p>【活動・成果】</p> <p>会議時間の縮減については、時間内に終了するという意識が</p>	<p>※</p>

	<p>し、円滑な学校運営と総勤務時間の削減に努める。(総務部)</p> <p><b>【活動指標】</b> 現状を改善する手立てを2つ以上とりあげ、会議が60分以内で定時終了できるようにする。</p> <p><b>【成果指標】</b> 勤務時間内の会議60分以内の終了を90%以上とする。参照：昨年度実績 83%</p>	<p>広がり、設定時間内に終了する会議のパーセンテージが高まった。 90.6%(達成)。</p>	
	<p>(3)校内での情報共有を定期的に行い、スムーズな業務ができる環境づくりに努める。(管)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有や事前打ち合わせを密にして、情報共有の遅れがないように努め、学期ごとに状況の確認をする。</li> <li>・主事会の新設、オフサイトミーティングの実施</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員満足度アンケート「支援の依頼しやすい職場」項目で、全員「やや満足」以上。</li> </ul>	<p><b>【活動・成果】</b> 情報共有を円滑に行なうため、主事会を毎週水曜の午前中に行い、情報共有を密にした。 教職員満足度アンケートでは、満足:5、やや満足:4、普通:3、やや不満:2、不満:1としたとき、「支援の依頼しやすい職場」項目は3.15ポイントで、0.13ポイントのアップであった。 (全員の「やや満足」は達成できず)</p>	◎
教職員の資質向上	<p>(1)最新の支援機器やICT機器等の使い方や指導方法をサポートする。(情報メディア部)</p> <p><b>【活動指標】</b>教職員が、効率よくICT機器を活用した指導を行えるようにサポートする。個々ニーズに対応する為、個別または少人数のICT研修を開催する。</p> <p><b>【成果指標】</b>GIGA スクール構想に対応した、個別・少人数のICT研修を年5件以上開催。</p> <p>(2)教員が互いに研鑽を深め、視覚障がい教育の専門性を向上させ、その専門性を継承・発展するための研修を行う。(研修部)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>①校内全体で授業研究を推進する体制づくりをすすめる。12月13日～12月22日に校内授業公開週間を実施し、教員が授業を相互に参観し、学び合ったり、改善策を話し合って共有したりすることで、それぞれの授業力を向上させる。</p> <p>②三重県立盲学校の専門性チェックリストを活用して、教員の自己研鑽を促進するとともに、教員のニーズを捉え、以下の研修に取り組む。</p>	<p><b>【活動・成果】</b> 個別・少人数を対象にICT機器の操作について指導を行った。</p> <p>1)個別・少人数対応(11件) 2)全職員に向け、ICT機器操作に関するマニュアルを配布(7件) 3)個別の質疑応答トラブル対応(160件)。(達成)</p> <p><b>【活動・成果】</b> ①87%。(達成)</p> <p>学部所属教員が一人2授業を公開し、全体研修として相互に参観した。事後検討会の時間は設定できなかったが、参観後に個別に直接話し合われたり、コメントシートで改善点を共有したりできた。コメントシートの記述から、他の教員の授業を参観することは、参観者・授業者双方にとって様々な気づきがあったことが伺え、今後の授業改善になると期待できる。また、授業公開に向けて、新しい学習指導要領に則った指導略案を提示し、</p>	

	<p>ア 新転入者のための研修:4回 イ 学部研修・寄宿舎研修:10回 ウ 全体研修:5回 エ 県外研修報告:2回 オ 公開講演会:1回</p> <p>【成果指標】</p> <p>①1月にアンケートを実施し、「授業力が向上したと思われる。向上しそうだ。」の回答が80%以上。 ②各研修の満足度80%以上</p>	<p>観点別評価を踏まえた指導案作成を推進することができた。 ②ア:100%、イ:93%、ウ:97%、エ:93%、オ:100%。(達成) 専門性チェックリストの結果から、個人・学部・科による弱み・強みを明らかにすることができ、「点字の基礎的な知識・技能」に関わり、試験問題作成研修(中学部)、「視覚認知の構造と配慮」に関わりロービジョンケア(公開講演会)、「触察・触図」に関わり、3D プリンター研修(全体研修)など、以後の全体研修・学部研修に生かすことができた。 ※コロナ禍で県外研修が縮小され、県外研修報告会は3月に1回のみ実施予定。他は計画通り実施。</p>	
--	---	--	--

### 改善課題

コロナ禍により、十分な避難訓練が行えなかったことで、感染状況が改善されれば避難行動以外の内容を含んだ取り組みを行っていききたい(感染状況が改善されない場合、学部別など、人数を減らした状態等で取り組みを考えていく)。

また、いじめ事案がゼロであるよう今後も取り組んでいきたい。

支援については、依頼を多数受けていて、状況が許す限り支援を行っていききたい。特に乳幼児の支援についても啓発を進めていきたい。

コロナ禍の休業により時間の確保ができ、広い分野の研修を行うことができた。可能であれば今後も続けていきたい。また、今年度校内の授業研究を始めたが、仕事分担の均一化を図り、過重にならない程度に継続していききたい。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>県内で1つの視覚障がい者の教育機関なので、在校生はもとより、地域の視覚障がいのある人たちへの教育的な支援を今後も続けてほしい。特に、早期教育の効果が大きい障がい種なので、ライフステージをつなぐトータル窓口の設置に向けて、どのような体制作りをするのか示していくべきである。特に、医療や福祉との連携のあり方が重要であると考えている。</p>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>いじめをはじめとする安全安心な学校生活の取り組みを維持し、児童生徒に向けた授業力向上、支援力向上、進路の提案などの取組を行う。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>職員の過重労働を減らすべく、会議の短縮化や業務分担の均一化に向けて取り組む。</p>

校内での情報共有を合理的にして、継続していく。